

八女筑後看護専門学校 自己点検・自己評価

目的

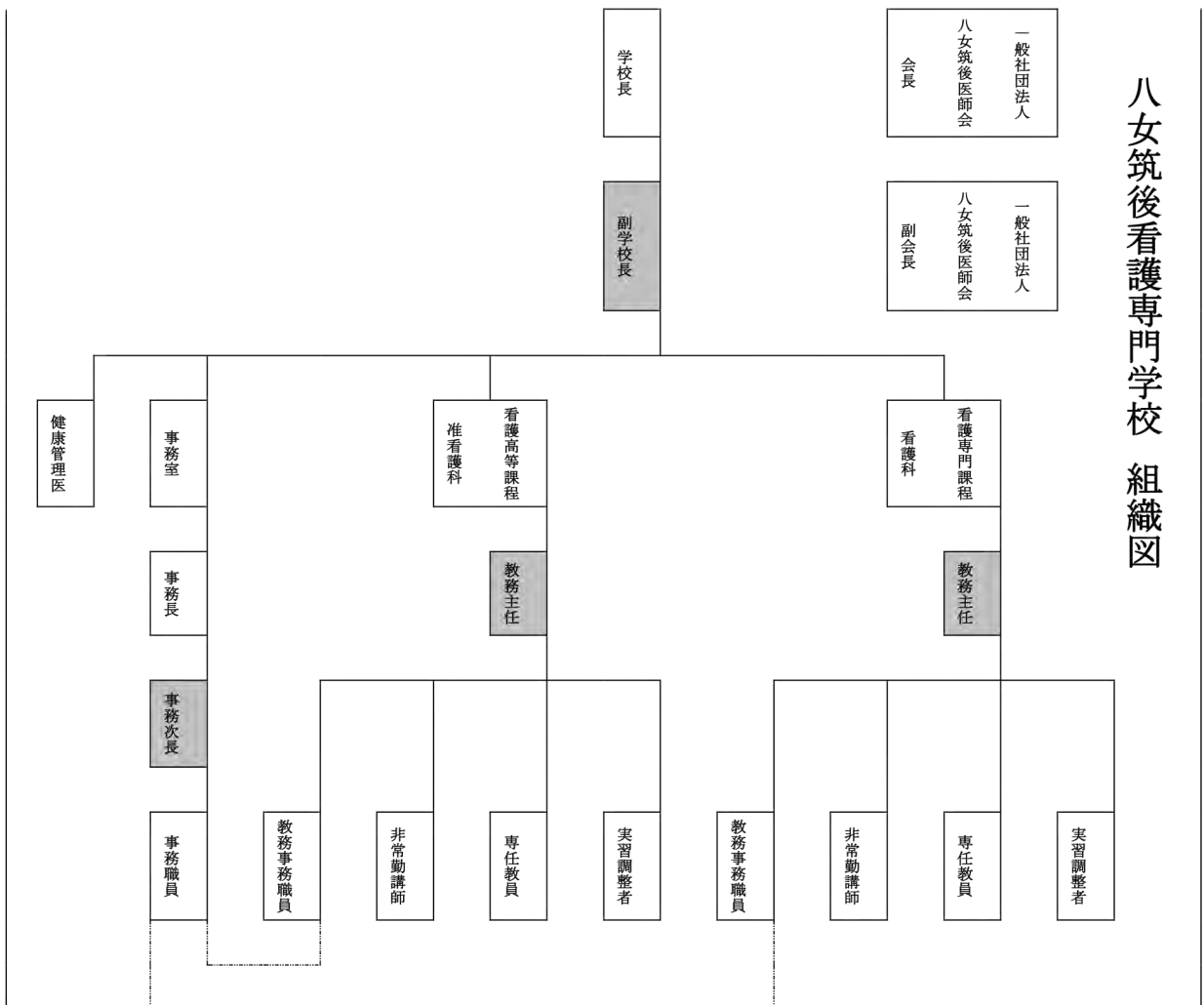
自己点検・自己評価は、看護師等養成所における教育評価の一環として位置づけられる。八女筑後看護専門学校では、教育活動やその他の運営状況について点検・評価を行うことにより、本校の強みと改善点を明らかにし、教育の質向上や健全な学校運営等を目指して組織的・継続的に取り組むことを目的とする。

方法

- ・厚生労働省の「看護師等養成所の自己点検・自己評価指針」を参考に、本校の「学校評価表・ガイドライン」を作成し、毎年度、自己点検・自己評価を行う。
- ・全教職員が評価表に基づき評価を行い、その結果を「学校評価委員会」にて分析し、教職員全体へフィードバックする。
- ・評価結果に基づき次年度への重点課題を決め、検討を重ね改善に取り組んでいく。
- ・評価結果、重点課題を外部へ公表する。

学校評価委員会構成

構成員



八女筑後看護専門学校 組織図

平成28・29・30年度 自己点検自己評価結果 看護科

<評価基準> 3:当てはまる

2:やや当てはまる

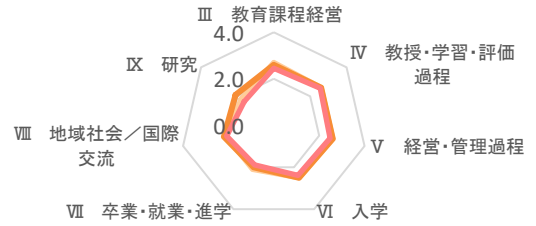
1:当てはまらない

28年度 29年度 30年度

	28年度	29年度	30年度
III 教育課程経営	2.7	2.6	2.5
IV 教授・学習・評価過程	2.6	2.6	2.6
V 経営・管理過程	2.6	2.6	2.5
VI 入学	2.5	2.5	2.4
VII 卒業・就業・進学	2.1	2.0	1.9
VIII 地域社会/国際交流	2.1	2.2	2.1
IX 研究	1.8	2.1	1.6

看護科 自己点検自己評価結果

— 28年度 — 29年度 — 30年度



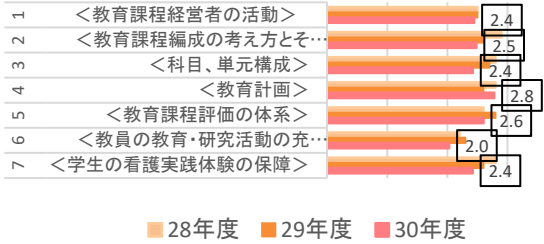
III 教育課程経営

28年度 29年度 30年度

	28年度	29年度	30年度
1 <教育課程経営者の活動>	2.5	2.5	2.4
2 <教育課程編成の考え方とその具体的な構成>	2.9	2.6	2.5
3 <科目、単元構成>	2.8	2.7	2.4
4 <教育計画>	2.8	2.6	2.8
5 <教育課程評価の体系>	2.6	2.8	2.6
6 <教員の教育・研究活動の充実>	2.2	2.3	2.0
7 <学生の看護実践体験の保障>	2.8	2.6	2.4
平均	2.7	2.6	2.5

III 教育課程経営

0.0 1.0 2.0 3.0 4.0



IV 教授・学習・評価過程

28年度 29年度 30年度

	28年度	29年度	30年度
1 <授業の展開過程>	2.6	2.5	2.4
2 <目標達成の評価とフィードバック>	2.7	2.5	2.7
3 <学習への動機づけと支援>	2.9	2.8	2.6
平均	2.7	2.6	2.6

IV 教授・学習・評価過程

2.2 2.4 2.6 2.8 3.0



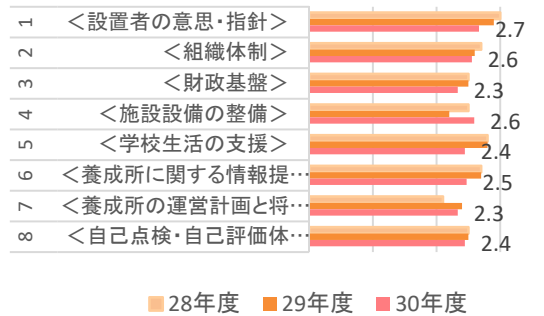
V 経営・管理過程

28年度 29年度 30年度

	28年度	29年度	30年度
1 <設置者の意思・指針>	3.0	2.9	2.7
2 <組織体制>	2.7	2.6	2.6
3 <財政基盤>	2.5	2.5	2.3
4 <施設設備の整備>	2.5	2.2	2.6
5 <学校生活の支援>	2.8	2.8	2.4
6 <養成所に関する情報提供>	2.7	2.7	2.5
7 <養成所の運営計画と将来構想>	2.1	2.4	2.3
8 <自己点検・自己評価体制>	2.5	2.5	2.4
平均	2.6	2.6	2.5

V 経営・管理過程

0.0 1.0 2.0 3.0 4.0



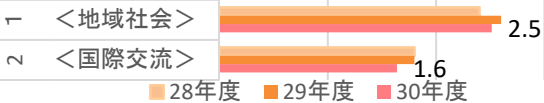
VIII 地域社会/国際交流

28年度 29年度 30年度

	28年度	29年度	30年度
1 <地域社会>	2.4	2.6	2.5
2 <国際交流>	1.8	1.8	1.6
平均	2.1	2.2	2.1

VIII 地域社会/国際交流

0.0 1.0 2.0 3.0



平成30年度 重点課題に対する評価 看護科

1. 第108回看護師国家試験全員合格に向けて対策を強化する。

昨年に引き続き、2年連続100%を達成できた。6月以降業者模試を月に1回、合計9回実施し、学生の学力向上の確認を行い、チュータからの模擬試験の結果を踏まえたタイムリーな指導を行った。また、業者による特別講義を実施し、学生のやる気を刺激した。更に、国家試験1か月前には業者による必修問題の対策強化ゼミに全員臨ませ、成績低迷者には学内での補習講義も行った。卒業時の学生のアンケートでは「国家試験対策に満足しているか」に対して、72%の学生が肯定的な意見であった。既卒生に対しても、模試や個別の面接を実施し、3名が国家試験を受験したが、2名は合格し1名は力が及ばなかった。引き続き次年度も国試対策を強化していく。

2. 教員が学生のやる気を引き出す関わりを行う。

学生には2年間の目標を持たせ、教科外活動の時間内に各チュータの面接を行った。「学生の目標の達成状況のチェックや見直し」の目標に対して、各教員は4段階評価において「3:まあまあできた」は33%、「2:あまりできていない」は67%であった。また、「チュータでの指導における学力向上」の目標に対して、「3」は44%、「2」は56%で、これらの状況から十分に学生のやる気を引き出す関わりができたとは言えない。学科試験の平均は例年との差は見られないが、実習での躓きが目立つ学生が増えてきている現状から、学んだ知識や技術を実際に行動に活かせる能力を向上させていくためにも、学生のやる気を引き出す関わりが今後も課題である。

3. 教員の教育力を向上させ、基礎看護技術の技術強化と支援を行う。

基礎看護技術のグループ分けや演習時間内のグループワークの進め方、評価方法などの検討を行い、技術指導の強化を行った。その結果、「基礎看護技術の指導力の強化」の目標に対して、教員による4段階評価の平均は2.7であり前年度の2.4より上昇した。また、基礎看護学実習において技術の未熟さで不合格になる学生はいなかった。しかし、放課後の技術練習が大変との学生の声も多いため、今年度は授業時間内に技術向上ができるような工夫が必要である。学年末の学生のアンケート結果では「専門的な技術が身についたか」に対して、1年生は、基礎技術が主であり83%が肯定的な意見であった。しかし、卒業時の2年生の結果は69%と低下したのは、様々な領域の専門的な技術と捉えているためではないかと考えられる。

4. 教育力の向上に向けて、授業準備の時間確保のために業務を整理する。

教員の授業準備の時間確保ができるように、業務内容を整理した。しかし、臨地での実習指導に多くの時間を費やし、更に実習終了後の記録の指導にも時間がとられ、授業準備の時間確保ができなかった。水曜日に実践活動外学習の時間を確保し記録の指導にあててはいるが、指導にかなりの時間を要しているのが現状である。今後も引き続き課題に取り組んでいく。

5. 優秀な学生を確保するために広報活動を強化する。

「学校見学会」から「オープンキャンパス」へと名称を変更し、准看護科と看護科合同で3回行った。また、HPの充実を図ることや学校訪問を充実させたが、前年度より参加者数と受験者数が共に減少した。その背景には18歳人口の減少があり、看護系大学の増加による専門学校を目指す学生の減少があると思われる。今後、在校生が本校に入学しての良さを後輩に伝えられるように、また教職員が本校の強みを意識し、学生に伝えるなどして、ニーズに応じた選ばれる学校にしていく必要がある。引き続きオープンキャンパス・学校訪問での宣伝強化を行い、応募者数の増加に繋げていく。

2019年度 重点課題(看護科)

1. 第109回看護師国家試験全員合格を目指す。
2. 専門的な知識・技術を向上させ、社会が求めている人材教育（社会人基礎力の育成）に努める。
3. カリキュラム改正に向けて、現行のカリキュラムを見直し、より良い教育を目指す。
4. 本校で学んだことに誇りを持ち、満足できるような教育を行うことで、学生確保に努める。